

都市再生整備計画 事後評価シート  
追分地区

令和3年2月

北海道 勇払郡 安平町

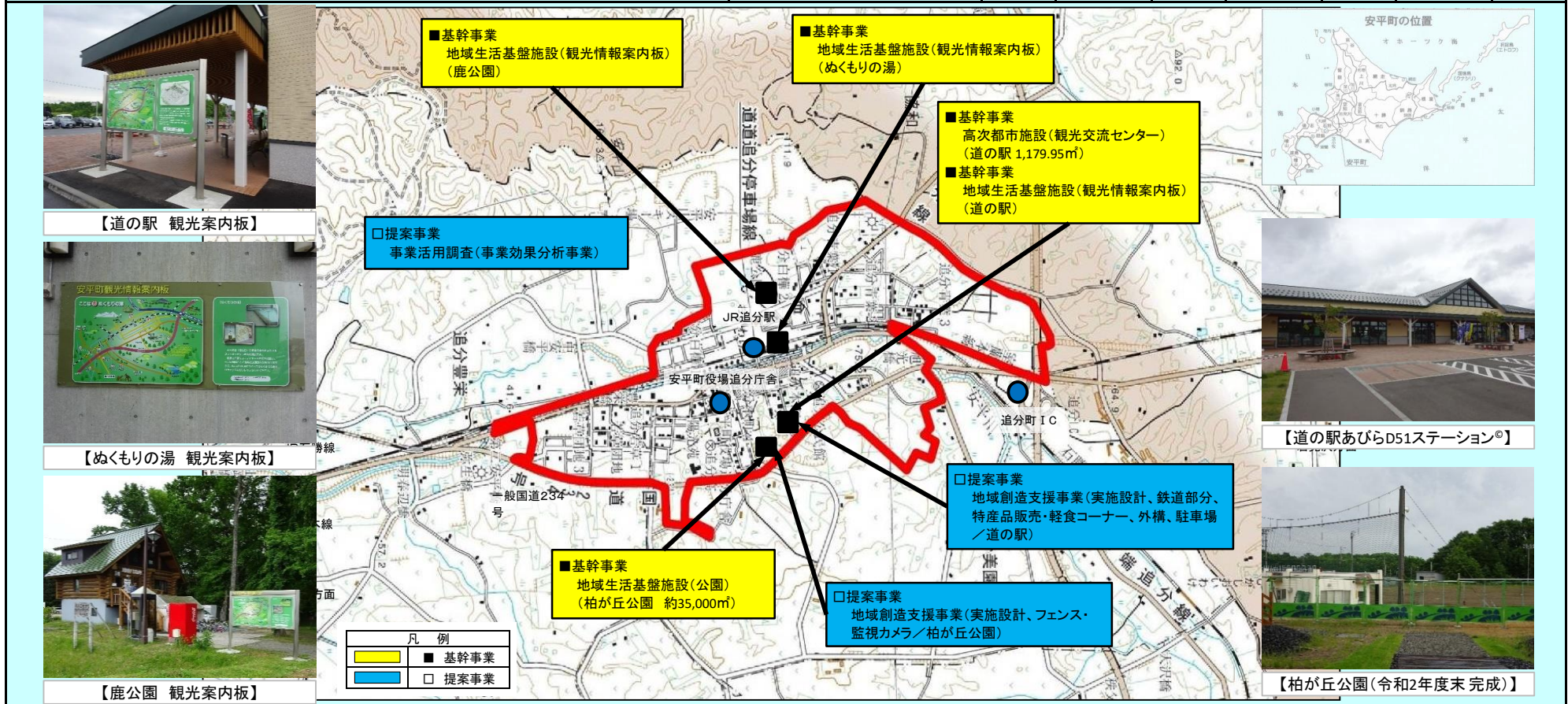
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	北海道		市町村名	安平町		地区名	道庁地区		面積	441 ha			
交付期間	平成27年度～令和2年度		事後評価実施時期	令和2年度		交付対象事業費	906百万円		国费率	0.272			
1)事業の実施状況	事業名												
	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	高次都市施設(観光交流センター(道の駅))、公園(柏が丘公園)、地域生活基盤施設(観光情報案内板)										
		提案事業	地域創造支援事業(実施設計[道の駅(鉄道部分、特産品販売・軽食コーナー、外構、駐車場整備)、柏が丘公園(フェンス・監視カメラ)]、事業活用調査(事業効果分析事業)										
	事業名												
	削除/追加の理由												
	削除/追加による目標、指標、数値目標への影響												
当初計画から削除した事業	基幹事業	—											
	提案事業	—											
新たに追加した事業	基幹事業	—											
	提案事業	—											
交付期間の変更	当初	平成27年度～令和2年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響									
変更	—												
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標	1年以内の	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ 予定時期	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み				
	指標1	観光者の入り込み客数	人	424,376	H25	650,000	R2	846,384	○	あり なし	道の駅での通年的な集客イベントの実施が奏功したほか、道の駅そのものが目的化したことにより町外来訪者数が大きく増大し、従来の集客施設・イベントによる交流人口と比べ、大幅な拡大に寄与した。	—	
	指標2	柏が丘公園の年間利用人員	人	3,307	H25	10,000	R2	16,000	○	あり なし	工事完了が令和2年度末になるため、公園の供用開始後の利用人員を推計した結果、目標を達成する見込みである。隣接する道の駅への来場者が公園施設に立ち寄るという波及効果と遊具や広場整備による集客効果のため、来場者の増加が見込まれる。	R3.4～R4.3	
	指標3												
指標4													
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標	1年以内の	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ 予定時期	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み				
	その他の数値指標1	回遊効果(観光案内板設置施設の利用者数)	人	152,940	H25			175,958			道の駅の集客力・情報発信力と相俟って、町内で統一化されたデザインの観光情報案内板を整備したことにより、他の町内施設への来訪者数の増加につながり回遊効果が発現した。 ※観光案内板設置施設(道の駅等を除く):鹿公園、ぬくもりの湯、安平町物産館、ときわ公園、鶴の湯温泉、まちあいステーションラビア、遠浅コミュニティセンター	—	
その他の数値指標2													
4)定性的な効果発現状況	道の駅整備後、通常の物販や休憩はもとより、イベントやキャンプに特化した展示・販売などの企画や情報提供、イベント開催により、地域外からの集客が増大し、町内の他施設への誘導による回遊性向上に寄与した。 公園整備後、これまでの野球場利用者に加え、地域外からの遊具広場の利用者が増加し、通年での地域外からの集客への寄与が期待できる。												
5)実施過程の評価	実施内容												
	モニタリング	—	実施状況						今後の対応方針等				
	住民参加プロセス	都市再生整備計画に記載し、実施できた											
		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した											
都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった													
持続的なまちづくり体制の構築	都市再生整備計画に記載し、実施できた												
	都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した												
	都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった												

## 様式2-2 地区の概要

### 追分地区(北海道勇払郡安平町) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
<b>大目標</b> 北海道安平町の資源を活かした回遊観光・地域間交流推進を契機とする急激な人口減少に負けない地域力の醸成 目標1: 「道の駅」を核とした新たな観光交流拠点・情報発信拠点の創出による交流人口の拡大を図る 目標2: 柏が丘公園の周辺を人と人がふれあう憩いの場として整備し、道の駅と一体となった地域間交流の促進及び交流人口の拡大を図る	観光者の入り込み客数	単位:人	424,376	H25	650,000	R2	846,384	R2
	柏が丘公園の年間利用人員	単位:人	3,307	H25	10,000	R2	16,000	R2
	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>交流人口の拡大が大きな課題であったが、一定時間滞在できる施設(公園・道の駅)の整備により地域外からの集客が増え、それに呼応するように周辺に魅力ある小規模な店舗が増えており、地域活性化と地域住民との交流が同時に実現し地域の魅力向上につながっている。</li> <li>道の駅での情報提供と地域内に3箇所設置した観光情報案内板により、来訪者への情報発信が図られ、地域内あるいは町内施設の回遊性が高まった。</li> </ul>
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>町内他地区との連携機能を発揮し、住民や来訪者の回遊・交流を維持できるよう、道の駅での情報発信の継続や情報の陳腐化の防止に努めると共に、町内各施設のクラスター化の強化を図る。</li> </ul>

# 都市整備計画 事後評価シート (添付書類)

## (1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

## ~~(2) 実施過程の評価~~

- ~~添付様式3-① モニタリングの実施状況~~
- ~~添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況~~
- ~~添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況~~

## (3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

## (4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

## (5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

## (6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

## ~~(7) 有識者からの意見聴取~~

- ~~添付様式9 有識者からの意見聴取~~

## (1) 成果の評価

### 添付様式1ー① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値	●		—	① 柏が丘公園の年間利用人員 ② その他の数値目標の追加	① 柏が丘公園について、集客性の高い遊具を設置する整備内容に変更となったため、目標利用人数を5,000人から10,000人に増加。 ② 回遊・交流拠点や観光情報案内板の整備による町外来訪者の回遊効果を評価するため追加。
D. その他( )					

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した、まちづくり目標、 目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路									
公園 (柏が丘公園)	—	55	駐車場・園路広場	152	駐車場・園路広場・膜型遊具・芝生すべり台	より集客性が高い設備(膜型遊具など)を増やしたことから、事業内容や事業費に変更が生じた。			令和3年度
古都及び緑地保全事業									
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設 (観光情報案内板)	—	3	3基	3	3基			●	
地域生活基盤施設									
高質空間形成施設									
高次都市施設 (観光交流センター(道の駅))	—	353	628.00㎡	289	556.20㎡	当初計画の事業費は概算であり、その後実施設計を行い施設面積や機能が確定したことから、事業内容や事業費に変更が生じた。		●	
既存建造物活用事業									
土地区画整理事業									
市街地再開発事業									
住宅街区整備事業									

※ 1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと



添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備促進事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※ 1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと





添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指 標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の 達成見込みの 有無		
			基準 年度		基準 年度		目標 年度		モニタリング	事後評価	数値	モニタリング	事後評価	あり	なし	
指標1	観光者の入り込み客数	人	—	—	424,376	H25	650,000	R2	モニタリング			モニタリング				
									事後評価	確定 見込み	●	846,384	事後評価	○		
指標2	柏が丘公園の年間利用 人員	人	—	—	3,307	H25	10,000	H29	モニタリング			モニタリング				
									事後評価	確定 見込み	●	16,000	事後評価	○	○	
指標3									モニタリング			モニタリング				
										確定 見込み						
指標4									モニタリング			モニタリング				
										確定 見込み						

指 標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	道の駅での通年的な集客イベントの実施が奏功したほか、道の駅そのものが目的化したことにより町外来訪者数が大きく伸び、従来の集客施設・イベントによる交流人口と比べ、大幅に増加した。	
指標2	工事完了が令和2年度末となるため、公園の供用開始後の利用人員を推計した結果、隣接する道の駅への来場者が公園施設に立ち寄るという波及効果と遊具や広場整備による集客効果のため、目標を達成する見込みである。	令和3年度にフォローアップを行い、確定値を得る予定である。
指標3		
指標4		

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指 標	単位	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)	
			基準 年度		基準 年度							
その他の 数値指標1	回遊効果(観光案内板設置 施設の利用者数)	人	—		152,940	H25	モニタリング			175,958	観光情報案内板を設置した 他の町内施設への入込数を 評価し、回遊効果を明らかに するため。	
							事後評価	確定 ●	見込み			
その他の 数値指標2							モニタリング					
							事後評価	確定	見込み			
その他の 数値指標3							モニタリング					
							事後評価	確定	見込み			

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

- ・道の駅及び観光情報案内板の整備後、町内他施設への町外来訪者数が有意に増加した。
- ・情報発信機能により回遊行動を誘発しており、また道の駅が「回遊・交流ステーション」としての機能を発揮している。

## (2)実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

### 添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由 )			

### 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由 )			

### 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由 )			

### (3) 効果発現要因の整理

#### 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
町内の回遊交流施策に関わる関係部局	建設課、教育委員会、産業経済課、地域推進課 等	令和2年12月	地域推進課

#### 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

種別	事業名・箇所名	指標1		指標2		その他指標1		総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
		指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見			
基幹事業	公園(柏が丘公園)	—	道の駅のオープン時は	◎	公園の工事完了が令	—	観光情報案内板を設	道の駅が最終目的	◎	道の駅での新規性の高い情報発信、他の回遊・交流拠点と連携した発信などを行う。
	地域生活基盤施設(観光情報案内板)	○	一時的に多数の集客が	○	和2年度末となり、利用	◎	置した他の町内施設(道			
	高次都市施設(観光交流センター(道の駅))	◎	あるため、評価期間から	○	者数の実数の計測は難	◎	の駅等を除く)への入込			
			外し、またコロナ禍によ	○	しいため、隣接する道の	◎	客数は、基準年前後の			
提案事業	地域創造支援事業(実施設計、鉄道部分、特産品販売・軽食コーナ	—	る観光自粛の影響を考		駅への来訪者が公園に		数年間は微減傾向に	道の駅が最終目的	◎	道の駅での新規性の高い情報発信、他の回遊・交流拠点と連携した発信などを行う。
	外構、駐車場整備/道の駅)	—	慮してもなお、予想を超		立ち寄る人数を類推し		あったが、評価期間内			
	地域創造支援事業(実施設計、フェンス・監視カメラ/柏が丘公園)	—	える大きな集客効果が		見込み値で評価したと		において施設整備を進め			
関連事業	事業活用調査(事業効果分析事業)	—	あった。		ころ、目標を大きく上回		た結果、目標年次には	道の駅が最終目的	◎	道の駅での新規性の高い情報発信、他の回遊・交流拠点と連携した発信などを行う。
		—	キャンプを感染リスク		の結果となった。令和元		基準年よりも入込客数			
		—	の低いレジャーとして、		年10月～令和2年9月ま		が増加した。			

※指標改善への貢献度

◎: 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。

○: 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。

△: 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。

—: 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	本町の回遊・交流拠点整備の締めくくりとなる道の駅の整備効果	柏が丘公園の利用は道の駅利用者の立ち寄りが多いことを踏まえ、町民との交流の場として維持を図る。そのためには道の駅利用者の誘導や一体的なイベントの実施など、道の駅との連携を一層強める。	観光情報案内板は多くの来訪者の目に触れる一方で、固定された内容であるため、道の駅での新規性の高い情報発信、他の回遊・交流拠点と連携した発信などを行う。
-------	-------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種類別													
指標名													
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業													
提案事業													
関連事業													

※目標未達成への影響度

- ××：事業が効果を発揮せず、  
指標の目標未達成の直接的な原因となった。
- ×：事業が効果を発揮せず、  
指標の目標未達成の間接的な原因となった。
- △：数値目標が達成できなかった中でも、  
ある程度の効果をあげたと思われる。
- －：事業と指標の間には、もともと関係がないことが  
明確なので、評価できない。

※要因の分類

- 分類Ⅰ：内的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅱ：外的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅲ：外的な要因で、予見が不可能な要因。
- 分類Ⅳ：内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)				

#### (4) 今後のまちづくり方策の作成

##### 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
町内の回遊交流施策に関わる関係部局	建設課、教育委員会、産業経済課、地域推進課等	令和2年12月	地域推進課

##### 添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
交流人口の拡大による地域活性化が最大かつ喫緊の課題	観光入込客数の増加のみならず町内回遊の向上が図られ、また新たな小規模小売店舗が立地するなど地域の魅力向上に資する動きが見られており、地域活性化につながっている。		
行き交う人が一時的に足を留める基幹施設の不備	町内回遊の拠点となる道の駅が整備され、多くの利用者が滞在する姿が見られる。		
住民間や観光客の回遊・交流が不十分	道の駅に隣接した柏が丘公園が整備されることにより、住民と観光客の交流の場が確保される。		
分断された地域内の機能のつながりの再創造や、観光資源のクラスター化	回遊・交流の拠点施設(道の駅)整備と情報案内板設置により、町内の他の施設の利用者が同時に増加し、回遊性の向上と機能のつながり・資源のクラスター化が図られている。		
地域の特徴を発信する機能施設(アンテナショップ等)が不十分	地域の特産品を道の駅で販売することに加え、相乗効果として地域内に小規模小売店舗の立地が増え、来訪者の購買意欲を刺激し地域の活性化・賑わいづくりにつながっている。		

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	賑わい、来訪者と地域住民との交流、地域活性化の維持	回遊・交流拠点機能と情報発信機能の維持が不可欠である。経年で低下する新規性の効果を補うため、鉄道(SL)、宿泊(キャンプ)、食(農産品)のような地域資源について、歴史や文化を活かし物語性のある発信を続けることにより、賑わいと交流の維持を図る。	道の駅で定期的に行っている企画・イベントの継続 他の回遊施設に関する情報発信の充実

B欄 改善策  ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業

フォローアップ又は次期計画等  
において実施する改善策  
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
—	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
—	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見



**添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画**

- ・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画		
			年度	年度	年度	年度	確定	見込み		あり	なし	予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	観光者の入り込み客数	人	424,376	H25	650,000	R2	確定 ●	846,384	○	あり	—	—	—	—
							見込み			なし				
指標2	柏が丘公園の年間利用人員	人	3,307	H25	10,000	R2	確定 ●	16,000	○	あり ●	—	令和3年4月～令和4年3月	令和3年度の道の駅来訪者数から、公園の遊具広場や雪遊び広場に立ち寄る利用者数を類推する。	—
							見込み ●			なし				
指標3							確定			あり	—			
							見込み			なし				
指標4							確定			あり	—			
							見込み			なし				
指標5							確定			あり	—			
							見込み			なし				
その他の数値指標1	回遊効果(サテライト資源の利用者数)	人	152,940	H25	/	/	確定 ●	175,958	/	/	/	—	—	—
その他の数値指標2							確定			/	/			
							見込み			/				
その他の数値指標3							確定			/	/			
							見込み			/				

### 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		
住民参加 ・情報公開	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		
その他	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		

添付様式6－参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

## (5) 事後評価原案の公表

### 添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	町のホームページに掲載	令和2年12月18日～ 令和3年1月18日	令和2年12月18日～ 令和3年1月18日	メールでの意見集約	地域推進課
広報掲載・回覧・個別配布					
説明会・ワークショップ					
その他	地域推進課窓口での閲覧	令和2年12月18日～ 令和3年1月18日	令和2年12月18日～ 令和2年1月18日	窓口での意見聴取	地域推進課
住民の意見	特になし				

## (6) 評価委員会の審議

### 添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員		令和2年12月	地域推進課	関係部局職員による審議	町
その他の委員	町内の回遊交流施策に関わる関係部局(建設課、教育委員会、産業経済課、地域推進課等)				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・事後評価のプロセスについて確認された。
	成果の評価	・目標が達成されたことについて評価された。
	実施過程の評価	・特になし。
	効果発現要因の整理	・事業整備による効果発現要因の整理について共通認識が図られた。 ・今後、町内各地区の一体的な連携により、効果発現を持続できるよう意見があった。
	事後評価原案の公表の妥当性	・今後、町民に対して公表するものとし、町民意見の結果によっては、第2回審議会開催の要否の判断が必要になるとの意見があった。
	その他	・特になし。
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きは妥当であると認められた。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・今後のまちづくり方策の作成にあたり、事業効果を継続させるための方策について確認された。
	フォローアップ	・令和3年度に実施されるフォローアップの手法について妥当と認められた。
	その他	・特になし。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策について、基本的な考え方と想定される事業は妥当と認められた。
その他	・特になし。	

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

### (7)有識者からの意見聴取

#### 添付様式9 有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理(添付様式5)、今後のまちづくり方策の検討(添付様式6)、評価委員会の審議(添付様式9)以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署

有識者の意見	
--------	--

# 都市再生整備計画

おいわけちく だい かいへんこう  
追分地区(第5回変更)

ほっかいどう ゆうふつぐん あびらちょう  
北海道 勇払郡 安平町

令和2年12月17日

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	<input type="checkbox"/>
都市再生整備計画事業	<input checked="" type="checkbox"/>
まちなかウォークアブル推進事業	<input type="checkbox"/>





計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p><b>整備方針1: 「回遊・交流ステーション」を中核とした町の「サテライト資源」とのクラスター化【安平町の魅力の向上とクラスター化】</b></p> <p>回遊観光・地域間交流の中核となる施設「回遊・交流ステーション」を町内4地区に指定し、各地区においては、回遊・交流ステーションを中心として、町内の施設や牧場、温泉、レストラン、イベント、特産などをサテライト資源として指定し、クラスター化する(ネットワーク化と相互作用化をともに実現する)ことで、より有効な観光メニュー化を進め、安平町の交流人口の拡大と地域活性化を図る。</p> <p>この実行にあたっては、新設等により整備する外的発展に対して、地域内の資源(文化)や伝統的枠組みを見直すことをとおして新たな産業形態の開発・育成をはかっていく内的発展を重視し、現有資源を磨き上げクラスター化し、地域内の機能のつながりを再創造していくことを出発点とする。(整備方針1に関する補足説明については、以下“その他”に記載)</p>	<p>高次都市施設(観光交流センター(道の駅)) 公園(柏が丘公園) 地域生活基盤施設(観光情報案内板) 事業活用調査(事業効果分析事業)</p>
<p><b>整備方針2: 歴史や文化を活かした観光交流を図る</b></p> <p>・地域住民と観光者(来訪者)との交流促進や町の魅力を発信する基地として国道234号及び道東自動車道追分ICにほど近く、安平町の北の玄関口である追分地区に「休憩・情報発信・地域の連携機能」を兼ね備えた観光交流センター「道の駅」を整備する。追分地区はかつて「鉄道のまち」として栄え、現存する蒸気機関車「D51 320号機」は地域のSL保存協力が整備を行っているため、全国の鉄道ファンが見学に来るほど保存状態も良好であり、追分地区の歴史や文化を継承する観光交流センターの「シンボル」として設置し、観光者(来訪者)に追分地区の歴史や文化を紹介する。</p> <p>・観光交流センターに隣接して地域住民の憩いの場として「公園」を整備する。また、観光交流センターに隣接することで観光者(来訪者)が回遊し、長時間滞在できる空間を演出し、相乗効果を発揮することが期待できる。</p> <p>・観光情報案内板を設置し、地域資源である「サテライト施設等」を回遊させる。</p>	<p>高次都市施設(観光交流センター(道の駅)) 公園(柏が丘公園) 地域生活基盤施設(観光情報案内板)</p>

その他

<整備方針1の補足説明>

■追分ゾーン

道東道追分IC、特急が停車するJR追分駅を有し、道都札幌・新千歳空港も近いという利便が良い地域でありながら、観光・交流の中核となる施設がない。新たな中核施設として、地域変化の象徴である「SL」「鉄道」による魅力化・差別化を図った道の駅を建設し、他の3地域に整備する回遊・交流ステーションを統括する安平町の総合観光ステーションに位置づけ、道北・道東との中継地として観光客を取り込む施設とする。

さらに道の駅に隣接する柏が丘球場周辺における公園整備を行うことで、道の駅の整備効果をより高めるとともに、観光客や地域住民の憩いの場とする。

■安平ゾーン

みずほ館での農作業体験事業やコミュニティレストラン、みずほダムでのカヌー体験など、NPOによる新しい風が吹く地域。国道234号沿いに整備したあびら交流センターは、それらをつなぎ回遊させるハブ機能を持つとともに、周辺農家による農産物直売所として近隣市町住民を誘客する中核を担う。

■早来ゾーン

多くのゴルフ場を有する地域であり、年間30万人が訪れる観光客の多くをゴルフ場客が占める。しかし、ゴルフ場を町内の物産館やレストランへの誘客に結びつけることができていないことが課題であり、物産館及びラビアを中核施設に据えた観光・交流セットメニューをこれまで以上に充実させ展開していく。

■遠浅ゾーン

チーズ専門工場発祥の地であり、その歴史が今も継承されている畜産地域。全国的に有名な軽種馬牧場には競馬ファンが多数訪れ、国内最大級のメガソーラー発電所が観光スポットとなる可能性を秘めている。地域住民の融和と自治の核となるコミュニティ施設機能に、観光客への情報ステーションとしての役割を付加し、遠浅コミュニティセンターを新設整備する。

安平町回遊・交流ステーション形成概念図

